

月の裏側で土壌採取

中国

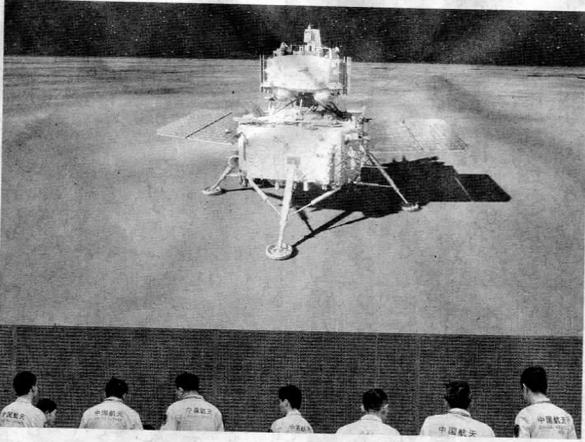
世界初、地球持ち帰りへ

【北京時事】中国の無人探査機「嫦娥6号」が4日朝（日本時間同）、月の裏側で土壌試料の採取を終え、月面を離陸した。月の周回軌道で待機する機体と合体後、今月下旬に地球へ帰還する。月の裏側の土壌を持ち帰ることに成功すれば、世界初となる。嫦娥6号は2日朝、月の

裏側の「南極エイトケン盆地」に着陸。2日間の滞在中、ドリルなどを使って月の砂や岩石を集めた。南極域には、水が氷の状態で存在するとされるほか、核融

合発電の燃料となるヘリウム3が大量にあるといわれる。

嫦娥6号はフランスや欧州宇宙機関（ESA）などの機器も搭載しており、中



2日、北京にある管制センターのモニターに映し出された中国の無人探査機「嫦娥6号」の着陸イメージ画像を前に作業する技術者ら（EPA時事）

国営中央テレビは「正常に作業が進んだ」と評価した。中国には、宇宙開発を巡る中国脅威論を和らげるため、国際協力をアピールする狙いがあるといわれる。中国は、月での継続的な活動を可能にする月面基地の運用を計画している。